事例No.	139
公表年度	H28
団体の属性	一般市
団体名	山梨県山梨市

事例区分	第三セクター

タグ	・会社法法人

事例種類	経営健全化に取組んだ事例（経営改革に取組んだ事例（経常赤字から計上黒字への転換、債務超過の解消等）

事例内容・タイトル

自主イベントの開催による集客増加

出典

第三セクター改革等先進事例集

事例名	自主イベントの開催による集客増加
団体名	山梨県山梨市
法人名	山梨市フルーツパーク(株)

＜地方公共団体のデータ＞※

人口(人)	36,256
標準財政規模(百万円)	10,555
財政力指数	0.42

※ 人口は、住民基本台帳に基づく人口(平成 28 年 1 月 1 日時点)
標準財政規模及び財政力指数は、平成 27 年度決算の数値

＜法人データ＞

[出資等の状況](平成 28 年 3 月 31 日時点)

山梨市	24(71.6%)
その他	10(28.4%)
役職員数(人)	9

[経営状況](平成 27 年度決算)

(単位:百万円)

経常収益	353
経常損益	19
当期純損益	15

資産	262
負債	111
純資産	151

[法人概要](設立目的、業務概要等)

山梨市フルーツパーク(株)は、農業の振興、農業情報の収取と提供、都市と農村の交流拠点となる施設「山梨市総合営農指導拠点施設(フルーツセンター)」の管理運営と、果樹、野菜等の農産物及び農畜産加工品等の販売など、観光とあわせて地域活動の活性化を図るため、山梨市、農業協同組合、商工会等による第三セクターとして、平成 2 年 12 月に設立した法人である。

現在、山梨県笛吹川フルーツ公園の公共区域及び民活区域の指定管理者として、それぞれ県、市から指定を受け、管理委託により運営を行っている。



1. 本事例の概要(取組の内容、ポイント)

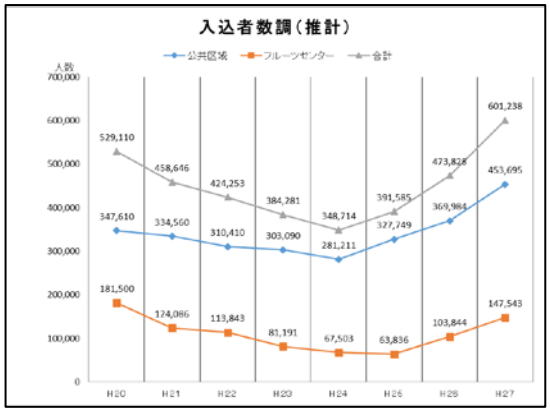
当該法人は、安定的な管理運営が可能な組織体制として、行政運営と民間経営に豊富な経験を持つ職員の配置、利用者の意見や第三者機関による評価等を受け入れ、各事業実施の創意工夫と経費削減に努めるなどの経営努力により、収益を確保し、負債の減につなげ市の財政リスクを軽減させた事例である。

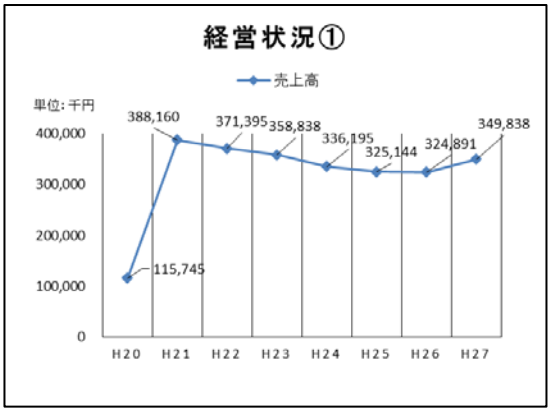
2．取組みの背景、理由、着手のきっかけ

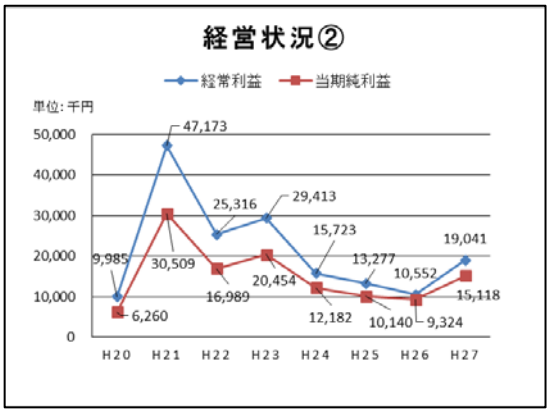
当該法人は、山梨県笛吹川フルーツ公園の民活区域に設置した山梨市総合営農指導拠点施設（フルーツセンター）を、平成 18 年度から市の指定管理を受け、平成 23 年度に 2 期目の更新を経て、平成 32 年度までの管理運営を受託している。さらに、平成 21 年度からは同公園の公共区域を指定管理者として、県の指定を受け経営範囲の拡大を図ってきた。しかし、世界・国内の経済情勢が不安定となった平成 20 年のリーマンショックや、その後に起こった東日本大震災などにより、公園を訪れる入込者数が減少し続け、平成 24 年では約 35 万人とこれまでにない最低の入込者数となった。

この状況を打開するため、積極的な事業展開を図ったことが、法人の経営を好転させるきっかけとなっている。

＜定量的要因による取組の背景、理由を示す図表＞







3．取組の具体的内容

(1)取組方針とその決定過程

県内のレジャー・観光地の状況は、世界遺産に登録された富士山方面を中心に多くの観光客が訪れている。これらの県内に訪れた観光客を獲得することが課題であり、その課題解決の方策として、自主イベントの開催や市内外で開催する観光イベント等に積極的に参加していく方針を法人内の総務企画担当・営業推進担当で立てている。

これらの取り組みについては、新規イベントの企画立案、内容の協議、検討を十分に行い、予め株主総会等に諮る中で、法人で関係機関と調整のうえ実施している。

3．取組の具体的内容（つづき）

(2)取組の具体的な進め方

事業の企画から実施に至るまでの組織体制は、総務企画担当、営業推進担当が主体となり、それぞれの事業に関係する機関との調整や交渉等を行っている。

平成 26 年度から集客を図るため、イベントを毎月のように実施した。この取り組みでは、地元の果樹をテーマとした「さくらんぼの日」、「ももの日」、「ぶどうの日」など農業協同組合等との連携事業、また、山梨の食をテーマとした「山梨うまいもの市」など、地元の飲食店や商工会等との連携事業を実施した。さらに、市との共催事業「HAPPY 初日の出」等への参加など、年間で 14 回のイベントを実施し入込者の増につながった。

イベント開催後には、内容等の振り返りを行い、経営状況とあわせて事業報告書としてまとめられ、市や法人の株主総会、第三者評議会で報告されている。法人自らが PDCA サイクルに基づく業務改善を行い、サービスの質の向上に努めている。

イベントの開催以外では、法人において「来園者（利用者）アンケート」を毎日実施しており、利用者ニーズの把握に努めている。これらのアンケートを基に利用者の意見を反映させる取り組みも進めている。具体的には施設の建物内部を変更するもので、当初は熱帯植物園であったものをフィールドアスレチックドームとして改修し、親子連れを対象に、雨天時においても利用できるレクレーション施設とした。また、ドッグランの設置など、入込者の増を図るための取組も行っている。





4．取組の効果

独自事業として数多くのイベント開催を実施するなど、平成 25 年から徐々に入込者が増加し、入込者数は平成 27 年度に約 60 万人に達したため、法人の収益増につながっている。

特に、大きなサービス体制の変更は行っていないが、県外のリピーターが多いため、親切、丁寧な接客対応を心掛け、係内でのスタッフミーティングや「おもてなし講座」等の外部研修を受講することにより、職員の接客に関するスキルアップを図っている。

また、山梨県が地域振興等を目的として、平成 27 年 7 月から 11 月末までの 5 ヶ月間、埼玉県と山梨県の境に位置する「雁坂トンネル有料道路」の無料化を行ったことから、利用車両が前年の 1.5 倍となり、入込者増加への後押しとなった。

5．今後の課題（今後の方針、残された課題等）

これまで、法人が管理運営している施設の指定管理期間が、それぞれ山梨県笛吹川フルーツ公園の公共区域は平成 30 年度末、民活区域は平成 32 年度末までとなっており、今後も受託できる安定した体制づくりと、これまで蓄積してきた管理運営のノウハウを活かした、より質の高いサービスの提供に取り組まなければならない。また、地域・地域住民との交流連携に関する取り組みも進めて行く必要がある。

6．他団体の参考となり得る点（苦労した点、工夫した点、上手く進んだ理由、反省すべき点等）

果樹、野菜等の農産物及び農畜産加工品等の販売を行う当該法人が収益を上げるには、入込者の増が必要である。そのため、基幹産業である果樹栽培などの地域特性を生かしたイベントの開催や、市内外で開催する行政主催の観光イベント等に参加するなど、積極的な事業展開を行っている。ただし、企画したイベントに対し、新規参加の団体・業者については、誓約書等でチェックし、さらに出店料が未納にならないよう協議を行っている。 また、施設の「来園者（利用者）アンケート」を毎日実施し、施設利用者ニーズの把握と利用者の意見等を参考にした新たな取り組みと、関東近郊の旅行会社への売り込みも独自に行うなど、これらの経営努力により黒字経営となっている。

＜参考＞地方公共団体の問合わせ先

担当課	山梨市財政課	連絡先	0553-22-1111（内線 2426）